

(5)展開(例)

◎人権教育上の配慮 ※学校課題との関連

学習活動	形態(分)	教師の支援・指導上の留意点 評価規準・評価の観点(評価の方法)	資料															
1 問題場面を把握して見直しをもつとともに、めあてを共有する。	一斉(8)	・児童とのやり取りにより、三角形、平行四辺形、台形の面積の求め方で学習したことを想起できるようにする。	・前回までの拡大掲示物 ・ひし形の拡大掲示物															
ひし形の面積の求め方を考えて説明しよう。		面積に着目できるように、課題は1cm方眼上に示す。																
2 ひし形の面積の求め方を考える。 <予想される児童の反応>	個人(7)	めあては、児童生徒と体験や既習事項などと関連付けながら作るなどの工夫をするとともに、板書や掲示をしてはつきり示す。教科によっては、学習課題を示す場合もある。	タブレット ・デジタルコンテンツ															
・2つの三角形に分けて考える。		の面積の求め方を考えた時の図形の操作を見せて、個別に支援する。																
・三角形に分けて移動させ、長方形にする。		・1つの方法で考えられた児童には、自分の考えを分かりやすく伝える表現を工夫したり、他の方法も考えたりできるように促す。																
・三角形に分けて移動させ、平行四辺形にする。																		
・長方形の半分として考える。																		
3 ひし形の面積の求め方を説明し合う。	ペア(8)																	
4 ひし形の面積の求め方について、複数の方法を全体で共有し、ひし形の面積を求める公式をつくる。	一斉(12)	<table border="1" data-bbox="710 750 1292 1411"> <thead> <tr> <th colspan="3">評価規準・評価の観点(評価の方法)</th> </tr> <tr> <th>[十分満足できる状況(A)]の例</th> <th>[おおむね満足できる状況(B)]</th> <th>[努力を要する状況(C)]への支援の手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>複数のひし形の面積の求め方やその式表現を振り返り、ひし形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。</td> <td>態② ひし形の面積の求め方やその式表現を振り返り、ひし形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。(観察、ノート)</td> <td>どのように計算したのか振り返る活動を個別に支援し、言葉の式にできるようなひし形の構成要素を表すキーワードを示す。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(B)への支援の手立て</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>自分以外の考え方では、面積を求める際にひし形のどの部分を使っているかに着目させる。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価規準・評価の観点(評価の方法)			[十分満足できる状況(A)]の例	[おおむね満足できる状況(B)]	[努力を要する状況(C)]への支援の手立て	複数のひし形の面積の求め方やその式表現を振り返り、ひし形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。	態② ひし形の面積の求め方やその式表現を振り返り、ひし形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。(観察、ノート)	どのように計算したのか振り返る活動を個別に支援し、言葉の式にできるようなひし形の構成要素を表すキーワードを示す。		(B)への支援の手立て			自分以外の考え方では、面積を求める際にひし形のどの部分を使っているかに着目させる。		「指導計画及び評価計画」の評価規準との整合性を図る。また、評価方法についても記述する。
評価規準・評価の観点(評価の方法)																		
[十分満足できる状況(A)]の例	[おおむね満足できる状況(B)]	[努力を要する状況(C)]への支援の手立て																
複数のひし形の面積の求め方やその式表現を振り返り、ひし形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。	態② ひし形の面積の求め方やその式表現を振り返り、ひし形の構成要素に着目して言葉の式をつくらうとしている。(観察、ノート)	どのように計算したのか振り返る活動を個別に支援し、言葉の式にできるようなひし形の構成要素を表すキーワードを示す。																
	(B)への支援の手立て																	
	自分以外の考え方では、面積を求める際にひし形のどの部分を使っているかに着目させる。																	
本時が「記録に残す評価」の場合は、[十分満足できる状況(A)]の例についても記述する。評価規準に照らして、児童生徒が実現している学習状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断できる状況について記述する。			電子黒板															
[十分満足できる状況(A)]と判断できる児童生徒の姿は多様に想定されるので、学年会や教科部会等で情報を共有することが重要である。																		
<言葉の式> ひし形の面積は、2本の対角線の長さを使って求められる。																		
ひし形の面積＝一方の対角線×もう一方の対角線÷2																		
5 ひし形の面積を求める公式を使って、練習問題を解く。	個人(5)	◎ペア活動では、互いのタブレット上で図形の操作を見せ合いながら説明するよう助言する。																
6 今日の学習を振り返る。	個人	※全体での共有では、児童が電子黒板に提示した図形を操作しながら自分の考えを伝えたり質問に答えたりするよう促す。																
ABCの選択や◎○△の記入といった振り返りだけでなく、文章による記述の振り返りを取り入れて目標(ねらい)、めあて(学習課題)の達成具合を細かく見取るなど方法を工夫し、次の指導に生かせるようにする。適用問題に取り組んで本時の振り返りを行う事も考えられる。		・公式をつくる学習活動では、児童から言葉の式を引き出すよう、複数の方法を振り返りながら、共通点に着目するよう促したり、式と図を対応させて考えるよう助言したりする。																
できるようなったこと、気付いたこと、疑問に思ったことなどを書いて振り返るよう声をかける。		・発表し合い、今日の学習を共有する。																
教師の支援・指導上の留意点には、児童の気付きや言葉を引き出していくような工夫も記述できるとよい。																		